

最終報告書

[文書のサブタイトルを入力]

22年度3次隊 村落開発普及員

クーペラ市保健行政局

下川美奈子

[日付を選択]

[文書の要約をここに入力してください。要約は一般に、文書の内容を短くまとめたものです。文書の要約をここに入力してください。要約は一般に、文書の内容を短くまとめたものです。]

目次

1.	ナカルボ村における活動.....	2
1-1.	家庭訪問.....	2
1-2.	家庭トイレ.....	4
1-3.	井戸管理委員会.....	5
1-4.	その他.....	5
2.	ナカルボ村 CSPS 管轄村 ASC との協働活動.....	13
2-1.	乳幼児健診を利用した啓発活動.....	13
2-2.	蚊帳配布.....	16
2-3.	ASC による家庭訪問.....	17
3.	啓発ツールの普及活動.....	19
3-1.	NGO や団体に対しての普及活動.....	19
3-2.	SIAO における普及活動.....	20
	おわりに.....	23
付属資料		
表 1	家庭訪問結果表.....	24
表 2	ASC による家庭訪問結果.....	25
表 3	ASC へのアンケート結果.....	26

1. ナカルボ村における活動

村落部における衛生環境の改善を目的に、市内から 3km ほど離れた、ナカルボ村にて活動を行ってきた。家庭訪問や人々を集めての啓発活動、地域ボランティアである ASC¹に依頼しての啓発など、活動によって手法を変えてきた。他の村での活動を通し、村によって改善に対する積極性や、団結力に差があることを感じたが、特にナカルボ村では人々を集めるのが難しく、日々の生活で手一杯であるという印象を受けた。そのため、活動の後半に入ると、家庭訪問を増やしたり、人がすでに多く集まっているドロティエにて活動を行うなど、自ら場を作るのではなく、すでに人のいる場に入っていき活動をするようになった。1つの村で継続して活動を行っていたため、ほぼ全ての住民に顔を覚えてもらえ、衛生啓発をしに来ていることも浸透しているため、一緒にご飯を食べているときや、遊んでいるときなど、普段の何気ない時でも不衛生な点を指摘できるようになり、やがては隊員の前だと、冗談交じりではあるが、村人同士で注意し合えるようになった。

1-1 家庭訪問

(1) 飲み水管理

飲み水の管理方法の改善のために、村内 71 世帯の家庭を訪問し、必要家庭に対して指導を行った。水道の無いナカルボ村では村にある井戸から水を汲み、それぞれが家庭に運び帰り、カナリと呼ばれる伝統的な水がめに移されて料理や手洗いなど、日々の用途に使われる。訪問時には 27 世帯の家庭において、水カメに蓋がされていない状態であったため、衛生的に保つことによって回避できるリスクについて説明し、蓋を探し、常に被せておく習慣をつけるように促した。その場で改善を行えた家庭もあったが、ちょうどいいものがないという家庭に対しては再訪問を行い、蓋がなかった家庭 20 軒で改善がみられるようになり、衛生的に管理できている家庭が 62%から 90%に上昇した（表 1）。また、その場で蓋を見つけられた家庭でも、再訪問時には蓋が外されているという状況も何度かあった。子どもがすぐ外したままにしてしまうのが原因であり、母親にはしっかりと危機意識が芽生えたことから、子どもたちにも理由を話し、根気よくしつけるように促した。

¹ Agent de Santé Communautaire : 地域保健ボランティア



蓋がされていない水がめ



蓋を見つけ、洗う



洗った蓋で蓋をする

家庭訪問などで繰り返し伝えてきたのは、衛生問題は多くのことに注意を払う必要があり、どれが欠けても病気に陥るリスクが発生するということである。家庭訪問で訪ねてみても、衛生にしっかりと気を使っている家庭は少なく、病気との関連が見えにくいことが原因ではないかと考えた。村人や子どもたちもよく病気にかかっていたが、色々な点で不衛生な行動が見られるため、具体的に何が原因で病気に陥ったのかわからず、その後の行動に変化が起こらないのである。効果も見えにくい衛生改善に難しさを感じながらの活動あったが、根気よく続けていく必要のある、重要な活動であるとも感じており、そのことを村の人々も理解してくれていることが分かった時には励まされた。習慣を変えたり、新たに習慣付けることは容易なことではないが、変えようという意志さえあれば、少しずつ変化を起こせるのである。地道な活動ではあったが、習慣を変えてみようと思う意志を芽生えさせるきっかけにはなれたのではないかと思う。

(2) 蚊帳使用啓発

雨季前頃より、家庭訪問時に蚊帳使用状況に関しての聞き取りを開始し、破れて使われていない蚊帳の修繕等も行った。訪問できたのは45世帯で、しっかりと使用されている世帯はそのうちの23世帯であった(表1)。使用されていない蚊帳のほとんどが、破れてしまっており、補修の方法を知らないという母親に対しては一緒に修繕を行い、知っているが道具がないという家庭に対しては針と糸の販売を行った。蚊帳が破れてしまった原因のほとんどが小さい子どもによるものであるが、自分で修繕して使っていた家庭もあった。しかし、結局またすぐに破かれて諦めてしまった家庭も多く、子どもが寝ぼけて破かないように、朝はしっかり蚊帳を上にかけるようにと注意

をした。破れが大きすぎて諦めたり、後回しにする母親も多く、最終的に修繕を行い、再び使用するようになった家庭は 8 軒で、使用率は 51%から 69%に改善した（表 1）。母親たちと話している中で、新しい蚊帳を売って欲しいなどの希望も多く、蚊帳に対するニーズは高いことが認識できたが、首都ワガドゥグでの販売価格 2000fcfa を伝えようと、払えない、もう少し安くして欲しいと言われ、実際に買ったのは 2 人だけだった。2000fcfa という金額は、村人にとって高額すぎるということはないが、一度無料で配布されたものだけに、自ら支払ってまで手に入れるのではなく、また配布される機会を待とうというのが本音であるように思う。



破れて使用されていない蚊帳



蚊帳の修繕



蚊帳の破れ防止対策

1-2 家庭トイレ

家庭トイレはナカルボ村ではまだまだ普及しておらず、家庭トイレを持たない家庭の方が多くあった。そのため、家庭トイレの新設を支援してくれる NGO や団体を探すことから始め、県内で家庭トイレ普及のために活動を行っている 4 団体に話を聞くことが出来た。3 つの団体では資材を全て無料で提供してくれるが、それぞれ管轄地区や条件があり、ナカルボ村はそれらには当てはまらなかった。その代わりに、国家が行っている、セメント代のみ支出しなければならないプロジェクトへの申し込みが可能であることが分かり、早速村内の各地区の代表者を招き、説明を行った。最終的にプロジェクトの申し込みを行った家庭は 70 世帯であり、各家庭への必要資材の運搬までは終了しているが、雨季や農繁期が始まったことにより、隊員がいる間に工事を開始することは出来なかった。トイレ新設に伴い、使用方法や管理方法を説明して回る村民ボランティアが選出されたため、彼女の家に簡易手洗い器である TipTap を設置し、合わせて手洗い啓発も始めるようにと啓発イメージなども渡した。



トイレの申し込み法について説明するカボレ氏
農業省水管理担当者)



運ばれた資材



ボランティア宅に設置した
TipTap

1-3. 井戸管理委員会

活動開始当初、ナカルボ村には井戸が 5 つあり、それらそれぞれに管理者がおり、井戸管理のための集金を行っていた。しかし、実際に話を聞きにいくと、集金は行われておらず、管理者としての仕事も何もされていない状態であった。全ての井戸を見に行き、状態や修理の必要箇所などをまとめ、農業省の水管理担当者に協力を仰ぎながら、新たに井戸管理委員会を発足させる提案を当時の井戸管理者たちに呼びかけたが、結局実施には至らなかった。しかし、今年の 5 月に村出身者たちの出資により、新たに 2 つの井戸が村内に設置され、井戸は合計 7 つとなった。設置工事終了後は、出資者たちの指示により、井戸管理委員会の立ち上げがなされ、全ての役員が選出、使用者への集金も開始された。委員会立ち上げ後には、毎月の会議に参加させてもらい、集金や帳簿づくりの簡単な提案を行ったり、役員と共に再び修繕箇所の確認を行い、リストにまとめ、簡単な工事計画を立てた。出資者による定期的な監査もあり、今後も口座の開通、修繕工事など順調に進みそうであるが、村人たちの関心の低さは改善されず、今後も課題となってくるように思う。



役員との状態確認



工事必要井戸



井戸利用者カード

1-4. その他の活動

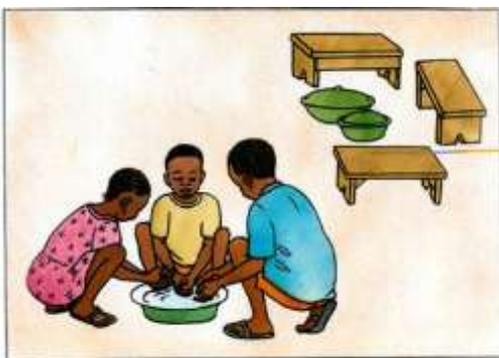
(1) 簡易手洗い器を用いた正しい手洗いの普及

ナカルボ村での活動を開始して以来、手洗いの方法やタイミングに関して不十分な点が多く見られたため、正しい方法と必要なタイミングでの手洗いの習慣付けを目的に、簡易手洗い器である TipTap や蛇口付きビドン²の試験設置、家庭訪問にて手洗い啓発を開始した。

◆手洗いの方法

水道のないナカルボ村での手洗いは、水をポンプから汲んできて、ビドンやカナリに入れ使用する。まず手洗いの課題として見てきたのは、手洗いの方法である。収穫期になると、大きな畑では近所や知り合いの人も手伝い、みんなで収穫をし、お昼には畑の持ち主からのご飯が参加者に振る舞われる。畑には飲み水やドロ、カラバス³も運ばれて作業の合間に飲まれ、食事の前の手洗いにも使用される。ご飯は女性、男性、子どもに分かれ、その中でまた何人かに分かれて一つの大きなお皿を分け合って食べる。この時の手洗いはカラバスに入れられた水を、グループごとに一人ずつ順番で、あるいは何人かでまとめて、カラバスに手を入れて同じ水で行われる（参考イメージ 1）。石鹸は使用されず、最初以外の方は、前の方の手洗いによって既に汚れた水で手を洗う。この方法は、お祭りやお葬式など、村人が多く集まり、ご飯を大勢で食べる際にも行われる。しかし、隊員に手洗いをさせてくれる時には、どんなに人が多くても、一番に洗わせてくれたり、水を上からかけて洗わせてくれるなど（参考イメージ 2）、自分たちが普段行っている方法の中でも最良の方法で洗わせてくれる。このことから、村の人たちは、どの方法が一番衛生的で、どの方法があまり衛生的ではないという、ある程度の知識がありながらも、水の節約や、手間の省略などによって衛生的でない方法を選択して行っていることが分かった。

参考イメージ 1



参考イメージ 2



² 水などを貯めておく蓋つきの容器

³ 瓜で作られた入れ物

◆手洗いのタイミング

次に、手洗いのタイミングに関してであるが、住民が手洗いをを行うのは手でご飯を食べた後や、泥や土が手に付いた後など、明らかに手が汚れた時が主である。ご飯を食べる前の手洗いも、上記に記した不十分な方法が主であり、小さい子どもたちには習慣付いておらず、手が汚れたまま食べ物を食べても注意する親は少ない。用を足した後や動物を触った後でも洗わないか水で流す程度であり、目に見えない菌や汚れなどに対する危機感が少なく、菌を殺すため、菌の伝染を防ぐための予防策としての手洗いが理解されておらず、洗うタイミングも不十分であることがわかった。

◆簡易手洗い器による啓発

より衛生的な方法での手洗いの定着、洗うタイミングの再確認を目的に、家庭向きの TipTap（参考イメージ3）は ASC 宅に、村人が多く集まる肉屋の前には、より多くの水を貯められる蛇口付きビドンをそれぞれ石鹸付きで設置し、村人への啓発も依頼した。どちらも場所の固定化による習慣付けが期待できる。

◎TipTap

利点	弱点
自身で簡単に作れる	水の量が限られる（5ℓ）
衛生的な方法での手洗い	普及初めは子どもが遊んでしまう
子どもが一人でも洗える	
固定のため習慣付きやすい	

○ASC 宅での試験設置

使える水の量が限られるが、簡単に作れ、家庭向きと考えられる TipTap は ASC 宅での設置を行った。ナカルボ村に加え、ナカルボ村 CSPA 管轄のうち 5 村の ASC 宅にも材料を全て用意してもらい設置、資料と石鹸袋を配布して啓発を依頼した。設置後から、ほぼ全ての ASC が積極的に啓発を開始し、ASC 自身が TipTap の利点を良く理解し、普及させようと精力的に活動を行ってくれた。村人の反応はよく、設置したいとの声も多かったが、ビドンを自分で用意しないといけないことがわかると、結局設置には至らない場合がほとんどであり、他の村の啓発担当者が設置しただけであった。しかし啓発に関しては、コレラが流行中であること、衛生的な方法と適切なタイミングでの手洗いの慣行の呼びかけ等、しっかりと出来たという声が聞け、啓発ツールとしては非常に有効であった。小さい子どもがいる ASC 宅では、子どもが TipTap を使って自分で手洗いをするようになったとの声もあり、手洗い器としての有効性も感じ取れた。

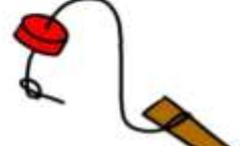
参考イメージ3

TIPTAP AMÉLIORÉE



utilité;
Après la latrine
Avant la cuisine
Avant le repas
etc...

Materials nécessaires
 · bois
 · bidon de 5 litre
 · fil
 · eau
 · savon

① Faire la forme avec les bois	② Percer un trou au couvercle du bidon, des trous pour l'eau sortira et un trou de l'autre côté pour l'air	③ Faire passer le fil pour la pédale	④ Faire passer le bois à l'anse du bidon
			



ASC 宅に設置された TipTap



自宅に設置した TipTap を紹介する ASC



子ども一人で洗える

◎蛇口付きビドン

利点	弱点
衛生的な方法での手洗い	技術者が市内にしかない
固定のために習慣付きやすい	耐久性が懸念される
貯めておける水の量が多い	少し高い
使いやすい	

○肉屋への設置

村人が多く集まり、啓発に適する場所がドロティエ⁴である。通常のドロティエであれば1週間に1日だけのため、週3回は開いているナカルボ村の肉屋に蛇口付きビドンを500Fcfaの値引きをして販売し、購入者への啓発を依頼し、定期的に視察に訪れている。購入者による手洗いの慣行に加えて、肉屋で使われている食器洗いにも使われるなど、何度も同じ水で洗われていた食器の洗い方も衛生的になった。TipTapを設置したRonsin村のASCから、人の多く集まるドロティエにもTipTapを設置して啓発を行いたいとの意見があり、TipTapでは大人数を賄えないために、ドロティエに適さないと蛇口付きビドンを勧め、同じく500Fcfaの値引きをしてRonsin村の肉屋にも販売した。視察に訪れた際に、より強度を増すために、カナリに蛇口を付けて使いたいと話してくれる村人がいたなど、啓発の効果や意識の変化が見られた。一番の不安である強度であるが、ナカルボ村の肉屋のビドンで水が漏れだした際は、セメントを使って自分で修繕していた。村人たちからは欲しいという声がTipTapよりも多くあるが、値段で渋る村人が多く、運搬も難しいのが現状である。



蛇口付きビドン



肉屋にて設置



手を洗う子どもたち

⁴ 酒や野菜などが売られる、日替わりの市場

家庭訪問時にも手洗いのタイミングや方法に関する聞き取りを行ったが、手洗いは重要であるという意識は持ちつつも、手洗いの定着具合は家庭によって様々であった。前述した見えない菌の説明のためにはイラストを用い（参考イメージ4、5）、病気との関連について触れ、理解しやすいよう工夫したが、一番の課題は習慣性のなさであると感じた。習慣性を付けるためには、いつ、どこで、どうやって洗うかをしっかり教え、繰り返させることが大事であり、水道の無い村落部においては、その点で TipTap や蛇口付きビドンは有効であると考えたが、積極的に設置しようという気を起こさせるまでには至れなかった。村の人たちはマラリア以外の病気にかかっても、何が原因までは理解も追及もしないまま、病院に行って薬を飲んで治すのを繰り返している。そのため、具体的なデータなどによって、手洗いでどれほど病気を防げるかを示せばより手洗いの重要性が認識しやすくなり、TipTap 設置を促すためには、村人を集めて、一緒にビドンに穴を開け、糸を通す段階までやり、自宅に帰った時に木を設置する段階だけ各々にやってもらうといった、少しの工夫でも設置家庭を増やせたかもしれないと思う。

参考イメージ4



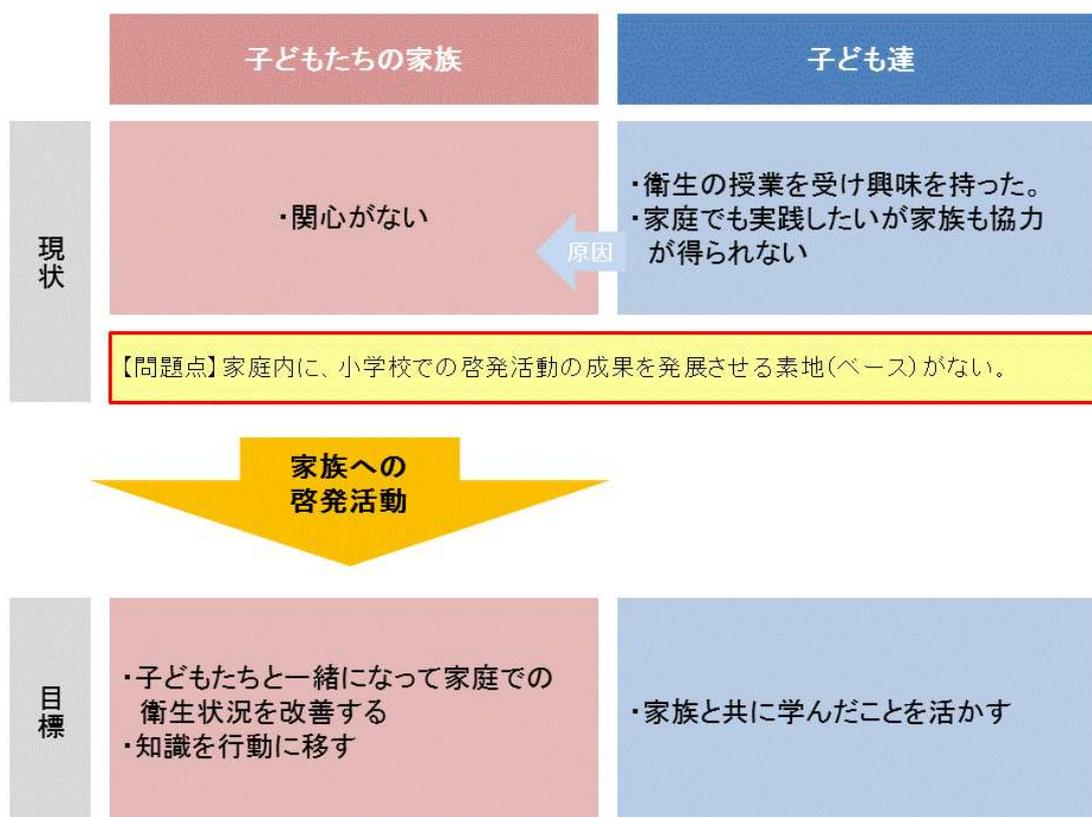
参考イメージ5



(2) ナカルボ村小学校における活動

村での活動と並行して、ナカルボ村小学校でも啓発活動を行ってきた。村で過ごしてみte感じるようになったのは、村では大人の意見が絶対であり、子どもが大人に意見することはほとんどないということである。村での衛生改善のために活動を行っていく相手として家庭に絞ったのも、現状ではせっかく授業などによって子どもたちが衛生や保健に関する知識を得ても、家庭で実行できる機会を得にくいのではないかと考えたからである。そのため、まずは素地となる家庭で環境を整え、大人たちの意識を変えてから、子どもたちにも広めていくという手法を選び、実施した。

図 1. 現状課題



実際に小学校で活動を行ったのは以下の3つである

1. ビニールゴミ啓発授業とゴミ拾いの実施
2. 手洗い啓発と TipTap の設置方法、石鹼袋の作り方
3. 蚊帳使用啓発とアンケートの実施

1. ビニールゴミ啓発授業とゴミ拾いの実施

啓発授業はあまり小さいと理解が出来ないという先生たちからの意見によって、小学校 5, 6 年生に対して、隊員の作った資料に基づいて先生たちが授業を行ってくれた。授業中には、学校にゴミ箱がないこと、学校の周辺にはゴミがたくさん落ちていることなどの意見が出て、週末にはみんなでゴミ拾いを実施することが決まった。小学生と行うゴミ拾いの懸念事項として、藪に入ったビニールを取る際に子どもたちがけがをしてしまう恐れがあると教育省の方からアドバイスを頂いていたため、生徒に配布するゴム手袋の支援を市役所に依頼し、新たに購入してもらえこととなった。授業内でも、ビニールを燃やすと有害ガスが発生するため、燃やすのは良くないし、減らす努力が必要と教えていたため、拾ったゴミは女性団体にゴミを取りに来てもらい、

クーペラ市から少し離れたゴミ収集場まで運んでもらうことを説明した。当日は多くのゴミを拾い、ゴミを詰めて作る布の端切れで出来たサッカーボールを詰めて先生に渡したが、数が少なかったこともあり、校長室に飾られたままであった。また、実施後の保護者会では校長先生自ら父兄に対し、子どもたちが学んだこと、ゴミを拾ったことを説明し、家庭でも実行できる環境を一緒に作っていくようにと促し、学校にはあらたにゴミ箱が2個設置された。



生徒たちとのゴミ拾い



ゴミを詰めて出来たサッカーボール

2. 手洗い啓発と TipTap の設置方法、石鹼袋の作り方

手洗い啓発、TipTap 設置の促しのため、ナカルボ村小学校で TipTap の設置デモンストレーションを行い、一部の生徒たちに対しては、石鹼袋の配布も行った。TipTap の設置自体を行わず、デモンストレーションに留めたのは、使用限界量や、耐久性への不安があり、やはり TipTap は家庭向きであると考えたからである。実際に、SIAO の事前プロモーションのために TipTap を設置させてもらった首都の小学校では、作成した4個のうち全ての TipTap が抜かれたり倒れたりしており、修繕し、現在使われているのは2つだけであることが分かった。しかし、校長先生の話から、TipTap を使用して手洗いをする生徒もいること、校長先生は何度倒れても修復し、使い続けたいと思ってくれていることが分かり、小学校にて TipTap の設置を行い、定期的に追跡調査を行っている短期の環境隊員の話によっても、やる気のある先生の学校であれば、ちゃんと管理・使用されているとのこと、小学校での設置も可能であるようである。今回の授業は隊員カウンターパートが行い、全学年の生徒の前で手洗い啓発、TipTap の作り方、使い方、手洗いの方法を教えた。また、生徒 50 人に対しては体を洗うネットを用いた作りかけの石鹼袋と TipTapno 作り方が書かれたイラストを配布し、家に帰って母親と石鹼袋の仕上げを行い、実際に石鹼を入れて使用するようにと促した。



カウンターパートによる啓発



TipTapの実演



配布した石鹸袋

3. 蚊帳使用啓発とアンケートの実施

マラリアに関する知識、マラリア罹患率、家庭における蚊帳の使用状況の調査のため、小学校5、6年生に対しアンケートを行った（資料1）。マラリアに罹患したことがある生徒の数は多かったが、原因をしっかりと理解している生徒は6割程度であり、統計を伝えるに再度訪れた際に、しっかりと教え、もう罹らないように注意するよう強く言った。マラリアの原因を理解していなくとも、ほぼ全員の生徒たちが『蚊帳＝マラリア予防』ということを理解しており、蚊帳の中で寝ている生徒は9割であった。

今回の、初めに家庭環境を整えるという手法によって得られた効果を具体的に測定することは出来なかったが、大人にも子どもにも啓発を行うことが出来、衛生意識という観点から、互いの改善された行動を理解したり、監視したりを容易に出来るようになったのではないかと、ある程度の効果は出ているように思う。

2. ナカルボ村 CSPS 管轄村 ASC との協働活動

近隣8村を管轄するナカルボ村CSPS⁵では、月に1度ずつ、4村を訪れて乳幼児健診を実施している。各村にはASCが2人ずつおり、CSPSと連携し、ワクチンキャンペーンの際の情報伝達や、薬配布などを行っている。ASCは村人たちによって選出され、CSPSはASCの交代などの指示をすることは出来ない。ナカルボ村管轄ASCは合計で16人おり、月に一度、ASCを集めて、翌月の乳幼児健診についての簡単な打ち合わせがある。他村への活動の普及のため、ASCとの連携の可能性を探りながら活動を開始した。

2-1. 乳幼検診を利用した啓発活動

(1) 蚊帳修理と針と糸の販売

⁵ Centre de Santé et de Promotion sociale : 保健社会福祉向上センター

乳幼児健診開始前の時間を利用し、蚊帳使用啓発ビデオの上映と、蚊帳の使用に關しての簡単なアンケートを行った。その中でわかったのが、

- ・状態のいい蚊帳はしっかりと使用されている
- ・使われていない蚊帳のほとんどが破れてしまっている（子どもが破く）
- ・コートジボワールの内乱から越してきた人々は蚊帳を持っていない
- ・新しい蚊帳は欲しいが高ければ買えない（500fcfa が理想）

一度破れてしまった蚊帳は、使われずに置いておかれているため、次回検診時に持ってくることを呼びかけ、補修法の実演や針と糸の販売も行った。蚊帳を検診場所に持ってくる母親は、毎回だいたい1~2人だったが、針と糸は500fcfaと安価であり、合計38人の母親に販売をした。縫い方はほとんどの母親が知っていたと思われるが、蚊帳の直し方は知らないというので、最初に縫い方を見せ、後からやってみるように渡すと、ほとんどの母親が縫えていた。針と糸を販売した母親に対し、次回検診時に縫い終えたかを聞くと、縫えた蚊帳を見せてくれる母親もいたが、まだ縫っていないという母親と半々ぐらいであった。補修された蚊帳は再び使われるようになり、補修の講習会や呼びかけは効果的であったが、既に何度か自分で補修したが、すぐ破れるので使うのを辞めたという母親も何人かいた。



ASCによる蚊帳補修



隊員による蚊帳補修

(2) ASCによる啓発活動

検診開始前の待ち時間を利用し、ASCによる啓発活動を開始した。啓発内容はCSPSで行われる、ASCを集めた月例会議で発表し、必要であれば資料の配布を行った。月例会議への参加は毎回16人中6~8程で、ASCの能力などによって、啓発の様子は様々であったが、看護師がしっかりとサポートをし、答えや意見を求めるなどして毎回母親を当てることで、参加者の理解が増していたように思う。月例会に参加しないASCも多いため、啓発内容をあらかじめ共有できていなかった場合には看護師が代わりに行

った。テーマは以下の5つである。

- 蚊帳使用法と修繕方法
- マラリア予防
- 手洗い啓発
- ゴミ管理
- 栄養の取り方

蚊帳の使用方法に関しては、乳幼児健診に来ている母親以外の村の人々にも広めるために、乳幼児健診以外で時間を作り、村人を集めての啓発を行ってもらい、ノートを配布し、人数を記録するよう依頼し、看護師や隊員が見に行くことはなかったが、1つの村を除いて、全ての村で2回以上実施された。

村	開催回数	参加者数
Ronsin Mossi	04	111
Ronsin peul	---	---
Karrin	02	36
Bollin	02	46
Kwrioghin	02	13
Rioghin	04	56
Gninga	02	12
Total	16	274

TipTap の設置に関しては、事前に ASC に木や容器などの材料を用意しておくように依頼し、しっかりと用意してした ASC と用意していなかった ASC に分かれたが、用意していた ASC の啓発を見ているも毎回しっかりと行っており、回数を追うごとにやる気の差が見えてきたように思う。ASC は各村男女1人ずつであるが、概して男性の方が啓発に積極的であった。一方で女性の ASC は、会議や検診に参加することも少なく、家事や農業を優先させているようである。ASC のやる気に対して看護師はある程度の注意はするものの、あくまでもボランティアであり、各村によって選ばれるものであるためにそれ以上の口出しは行っていなかったが、11月の会議時に、ASC ごとの活動の振り返りの聞き取りを行っている際には、ASC によって活動量に差があることを指摘し、活動を行えなかった女性 ASC、活動を行っていた女性 ASC にそれぞれ理由を求め、活動の見直しを促した。活動を行えなかった女性の主な理由はやはり農業や家事による忙しさで、看護師もそれを認め、意見はしっかり述べ、みんなで共有するよう求めた。また、活動を行っていた女性は、農業や家事の合間に家庭訪問を行っていたと言い、家には他にも家事を手伝える女性がいたことなどが明らかになった。活動を行えな

った女性も、農繁期が終わればまた頑張りたいと述べており、看護師はこれらを踏まえて、ASCの活動ぶりを称えた。また来年はしっかりと年間計画を立てて、活動を続けていこうと叱咤し、今回のような隊員側で立てた計画に沿って活動してもらうのではなく、ASC自身によって時期や内容を決めての活動計画の策定の実現の可能性が見えたが、隊員の任期中にそこまでフォローできなかったのが心残りである。



ASCによる啓発活動（Bollin村）



ASCによる啓発活動（Ronsin村）

2-2. 蚊帳配布

蚊帳使用の啓発開始後、JICAブルキナファソ事務所に余っていた33個の蚊帳を活動で使わせてもらえることとなった。以前医療部会で行われていた蚊帳基金を参考に、500Fcfで蚊帳を希望者に販売し、収入を元に蚊帳の追加購入を行い、より多くの希望者に販売が出来るようにしたいと看護師長に提案を行ったが、CSPSでは、配布は出来ても蚊帳の販売は出来ないとのことであった。管轄村での乳幼児健診に赴き、啓発やアンケートなどを一緒に行ってくれた看護師からは、2011年に起こったコートジボワールの騒乱から逃げてきた家庭に配布したいとの意見があり、実際に啓発時に行った簡単なアンケートでも、引っ越しにより蚊帳配布を受けられなかったという家庭も多くあったため、カウンターパート、看護師長の許可を得てから実施に至った。

各村ASCに配布について、村民への連絡を依頼し、希望者は乳幼児健診で村を訪れる際に検診場所まで来るよう伝えた。希望者にはASCと看護師の確認の下、蚊帳の引換券を渡し、ナカルボ村CSPSの薬剤庫まで取りに行くよう伝え、配布者全員がその日の内に蚊帳を取りに来た。配布後の使用状況を見るため、内4軒を訪問し、寝る際の使い方、起床後の管理方法などについて指導を行ったが、どの家も訪問時には既に使用を開始していた。7月から配布を開始し、希望家族2人に付き1帳を、合計で18世帯に対し、33帳の蚊帳を配布した。18世帯の内、3世帯は、元々ブルキナファソに住んでいるものの、引っ越しにより2010年の蚊帳配布を受けられなかった家族であるが、他12世帯は全てコートジボワールからの避難家族である。

表 2. 蚊帳配布状況

村	世帯	配布数
Nakalbo	1	1
Ronsin	4	9
Karrin	4	8
Kwrioghin	6	8
Rioghin	2	4
Gninga	1	3
計	18 世帯	33 帳



配布された蚊帳の使用状況

ブルキナファソでは 2010 年に、家族 2 人に対し 1 帳の蚊帳の無料配布が行われたが、配布状況は村によってうまくいってたり、不足があったりしており、破れて使われなくなっている蚊帳も多い。アンケートや聞き取りを通して、マラリアの原因自体を分かっていなかったり、勘違いをしたりしていても、ほぼすべての人たちが『蚊帳＝マラリア予防』と理解していることが分かった。しかし、蚊帳が破れたら使わなくなり、直しもせず、購入もしないという現状を見ると、まだまだ蚊帳の効果自体への信頼は弱く、蚊帳の効果を証明し、まだまだ浸透が見られないその他の予防方法と共に、積極的に発信していく必要がある。最後に、住民たちの蚊帳の入手、購入意欲が高まったとしても、クーペラ市内では蚊帳を販売しておらず、入手が困難であり、現状の改善が求められる大きな課題である。

2-3. ASC による家庭訪問

2010 年に行われた蚊帳配布後の使用状況の調査のために、各村の ASC に家庭訪問による調査を依頼した。訪問した家庭は合計 79 世帯で、家族 640 人のデータを収集することが出来た（表 2）。家族 2 人に対して 1 帳を目標に配られた蚊帳であるが、現状では 3.3 人に対して 1 帳であった。蚊帳 1 帳に対して、寝ている人の人数が 1.8 人だったことから、制限人数で寝ていることが分かり、まだ使用できる蚊帳は、しっかりと使われていることが分かった。しかし、蚊帳の中で眠れていない人々は全体の 42%を占め、マラリアに罹患した際に最もリスクの高い妊婦で蚊帳を使用できていない人も 7 人であった。蚊帳の追加購入を必要とする人々の存在が明らかになったが、クーペラ市の CMA や CSPS にも、市内の商店にも蚊帳の在庫はなく、希望者への蚊帳のアクセスをどうやって改善していくかが今後の大きな課題である。

2010 年の蚊帳配布時に活躍したのは ASC たちで、ASC が各世帯の人数を把握し、

配布を行った。配布後には村人を集めての啓発活動や、家を訪ねての使用状況の確認を行い、どの ASC に聞いても当時は本当に大変だったと振り返る程忙しく働いたようである。今回もの調査でも、ASC たちによって信頼できるデータを得られたことは大きく、隊員配属先である保健省での発表を行った際にも高い評価を得ることが出来た。前述したとおり、ASC によってモチベーションの差はあるにしろ、彼らの能力や可能性を証明することが出来たのではないかと思う。最後に ASC に行ったアンケート（表 4）の結果では、今後に向けての前向きなアイデアなども聞けたが、今後のモチベーション維持のために何かしらの手当てや恩恵が欲しいなどの本音も垣間見え、長期的な連携を目指した時に、大きな課題となってくるのではないかと感じた。

今回 ASC との一連の協働活動の大きな成功要因として、隊員カウンターパートである SIECA、ナカルボ村 CPCS の看護師である AIS⁶による強いサポート体制が挙げられる。SIECA は事前に隊員と共に、ASC との活動計画を立て、DS⁷の MCD⁸、CPCS の看護師長や管理委員会に許可を取り、ASC の会議にも顔をだし、自身で説明を行った。AIS は常に ASC と SIECA の間に入り、自ら啓発の手本を見せたり、ASC の意見を SIECA に報告した。SIECA も時折乳幼児健診を訪れ、ASC の活動を見学し、活動結果をその都度ノートに書き留めておくように求めた。こうした監視体制に加え、月例の会議でも ASC による情報共有や意見を出す時間を取ることによって、うまくモチベーションの維持につながったように思う。また AIS の知識量は多く、ASC に対し、積極的な知識伝播を行うことも効果的ではないかと思う。



月例会議への参加（SIECA）



AIS による監査

⁶ Agent Itinerant de Sante 公衆衛生士

⁷ District Sanitaire 保健行政区局

⁸ Medicin-chef du District 医局長

4. 啓発ツールの普及活動

3-1. NGO や団体に対しての普及活動

簡易手洗い器である TipTap や、ビニールゴミ減少を目的に広めてきたパーニユで作る風呂敷バッグは、啓発ツールとしても有効なことから、以下の NGO や啓発団体に対して、積極的に紹介を行った。

表 3. 活動先一覧

組織（会議）名	対象	参加者
看護師長会議	各 CSPS の看護師長	30
AIS 会議	各 CSPS の AIS	26
コレラ会議	各保健系組織の代表者	22
赤十字	女性グループメンバー	8
CCFC	家庭トイレ新設家族	16
AAS	啓発担当者、子ども	12
AJPOD	各村の ASC	63
SaintAid	Grigny 小学校生徒	600
PLAN Koupéla	PLAN の啓発担当者、Tensobtenga 住民	1200

始めに、保健系組織の集まる会議でデモンストレーションを行い、各団体で披露できる機会をもらえるようお願いした。その後は口コミで聞いたという団体から依頼が来たり、誰かに紹介されて訪問する機会も何度かあった。対象として、実際に各地域で啓発を担当している人々に多く披露でき、簡単で実用的なために啓発時に取り込みたいといった声も聞いた。訪問時は常にカウンターパートと一緒に、モレ語を使える場合には参加者の反応も良かったため、隊員がモレ語での説明を行った。



TipTap のデモンストレーション

3-2. SIAOにおける普及活動

2012年度のSIAOにおいて、衛生行動改善、隊員活動の普及推進のためにブースを設置しての活動紹介を行った。衛生改善を目的に活動している同期隊員と共に、簡易手洗い器であるTipTapの設置、ビニールゴミのリサイクル品の展示、パーニユ（伝統的な腰巻）で作る風呂敷バッグの実演を行い、活動の広報や啓発に努めた。より多くの来場者にTipTapを用いた手洗いの慣行化を促すため、支援経費を申請し、メディアを利用した事前プロモーションも企画し、開催期間中には多くの来場者に足を運んでもらい、活動への興味や理解を得ることが出来た。詳細を以下に記載する。

（1）TipTapによる事前プロモーション

SIAO開会前に国営テレビを招き、首都であるワガドゥグ市内の小学校での事前プロモーションを行った。視聴者への手洗い啓発、TipTapの紹介、SIAO出店の宣伝を目的に取材を依頼し、当日は小学校にて生徒への手洗い啓発とTipTapの設置、デモンストレーションを行った。インタビューではTipTapの普及目的や利点について述べ、正しい手洗いの慣行、SIAOへの来場と、啓発担当者に向けて、TipTapを用いた手洗い啓発への参加を呼び掛けた。ブース来場者の中には放送を見て興味を持ったと試しに来てくれた人も多く、ブルキナファソ国内で啓発や支援活動をしている団体に加え、マリやセネガルなど隣国で活動をする人たちにもTipTapの紹介や説明をすることが出来た。また、SIAO閉会後には隊員任地でも多くの人に放送を見たと言を掛けてもらえ、隊員活動の理解に貢献した。

（2）TipTapの展示・実演

TipTapをブース内に設置し、デモンストレーションや作り方の説明を行った。TipTapのポイントである、あるもので簡単に作れる点や、子どもたちも一人で手を洗える点の説明を行い、多くの来場者に理解と興味を得られた。教育関係で働く人の多くから現場でも設置したいとの声があり、作り方の説明書きの配布を行った。SIAO期間中に受けたテレビや新聞の取材によって来場者以外にも紹介をすることが出来、TipTapの普及という目標をうまく達成できた様に思う。

(3) リサイクル品の展示

ブルキナファソに溢れているサッシェゴミのリサイクル方法の紹介として、水の入っていたサッシェから作った入れ物やカバン、草履などの展示を行い、作り方の紹介を行った。カバンやカゴに関しては売ってほしいとの声が多く、その都度リサイクルの普及が目的であること、作り方の説明を行い、自分たちで作ってみよう促した。講習会の依頼も多く、ゴミ問題にかかわる団体や、子どもたちに携わる団体など、国内で活動を行う多くの団体や個人から連絡先を頂いた。任地よりもサッシェゴミを問題視している人たちは多くいると感じ、行動変容が大きなポイントになってくると思った。

(4) 風呂敷バッグの展示・実演

ビニール袋使用量の減少を目的に、パーニュバッグの展示・実演 啓発を行った。パーニュから作れる簡単なカバンを展示し、実演用のパーニュをあらかじめ用意して来場者と共に作成した。切ったり縫ったりせずに、結ぶだけで簡単なカバンが作れることに対して驚く来場者が多く、カバンのデザインや実用性も好評を得られた。展示品を売ってほしいと言われることも多く、持参していたパーニュで作り、満足そうに持ち帰る来場者もいた。パーニュバッグ普及の目的がビニールゴミの減少であることも毎回伝え、買い物の際に持ち歩くよう勧めた。ビニールゴミの弊害も合わせて伝えたが、既に知っているという来場者も多く、実践し、広めていきたいとの声もあった。実演という形を取ったことで、それを見た他の来場者が興味を持ち、人だかりとなって、途切れることなく多くの来場者に作り方を教えることが出来た。

今回のSIAOでの出店を通して来場者や、テレビや新聞を見た人など、本当に多くの人たちに活動の紹介をすることが出来た。今回の出店の大きなポイントは、あるものを工夫して問題解決を図るという点である。TipTap、サッシェリサイクル品、パーニュバッグはどれもお金をかけず、手洗いやゴミの啓発の際のツールとしても使用しやすい。サッシェリサイクル品やパーニュバッグなどは売ってほしいとの声が多く、何をすることもお金が必要だとブルキナベの考え方が浮き彫りになったように思うが、その都度、既にあるもので出来ること、新たに買う必要はないことを説明することによって、工夫する、再利用するという考え方を理解してもらえたように思う。来場者の反応としては『驚き』が一番多く、アイデアと工夫に関して褒めて頂くことが多かった。活動の普及に加え、新たな考え方を与えるといった点でも大きな成功を収められたのではないと思う。



TipTapの実演



リサイクル製品の展示



多くの来場者



メディアによる取材



ブース全体



風呂敷バッグのデモンストレーション

おわりに

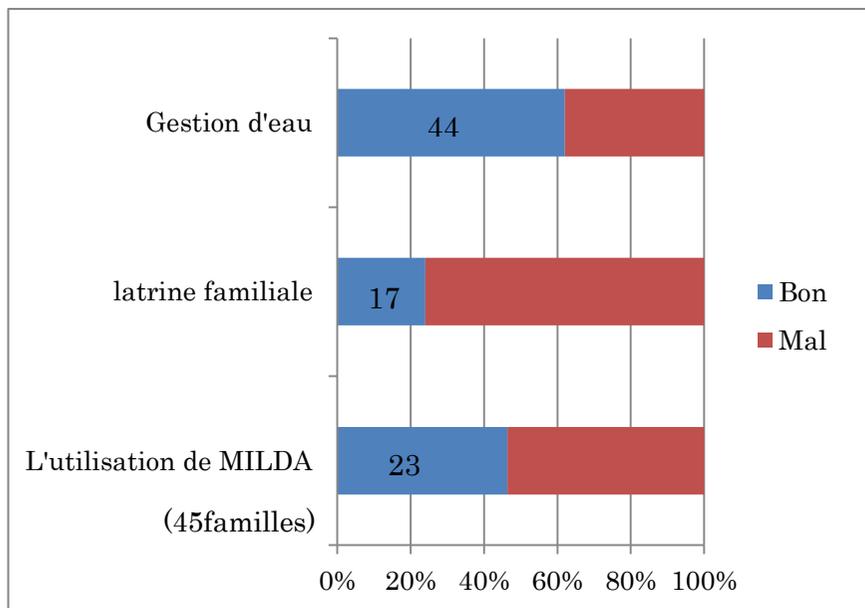
衛生改善を目的に活動してきたが、2年間を通して、外部者としての自分の役割や影響について悩むことが多かった。外部者であるからこそ見えてくる物もあるが、あくまでも自分は外部者であり、村の人にはそれぞれの生活があり、隊員が去った後もそこでの生活は続いていくのである。2年間で見えてきたこともたくさんあるが、ブルキナファソの全てを見ることは出来ないし、一部を見て、それがこの国であると決めつけてしまうことも怖かった。それゆえ、一つ一つの活動が慎重になってしまい、出来るだけ多くの情報を与えて、村の人に選択してもらうというのが主な活動手法となった。衛生改善は効果も見えにくく、行動変容を促すことも容易なことではなかったが、その分よく観察し、活動を工夫することで、村の人たちや同僚にも活動に対する姿勢も評価してもらうことが出来たように思う。ボランティアとして、村の人々と直接関わり、活動への反応や結果に一喜一憂、試行錯誤を繰り返しながらの2年間であったが、活動を終えて、やはり一番初めに浮かんでくる感情は、いつもあたたかく接してくれた、任地の人々への感謝である。特に隊員との活動は時間外や業務外でのボランティア活動になるにも関わらず、積極的に協力し、励ましながら進めてくれたカウンターパートやCSPSの看護師たちには感謝を言い表せないし、彼らがいなければ出来なかった活動ばかりである。初めは必ずしも協力的ではなかったが、隊員とかかわり、活動を進める中で、どんどん変わっていく姿を見ることが出来た。悩んだり、打ちのめされることも多かったが、結局助けてくれるのはいつも任地の人々であった。互いに理解し合い、時にはぶつかり合い、任地の人々との関わりの中で活動出来た貴重な2年間であった。

表 1 家庭訪問結果

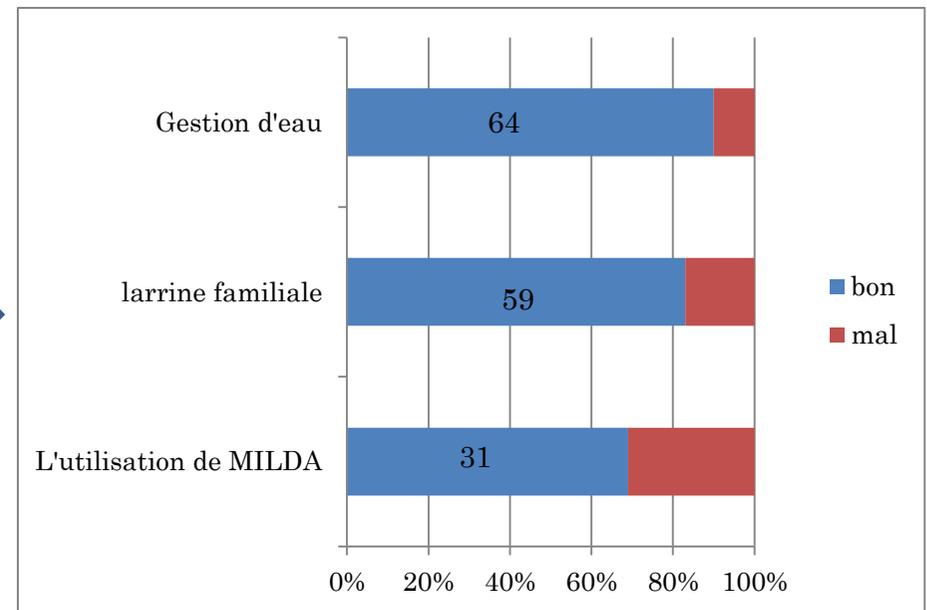
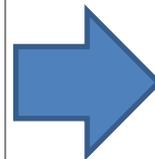
Village : Nakalbo

Nombres des cartier : 6

Nombres des familles : 71



Avant



Après

表 2 ASC による家庭訪問結果

Village	Nbre de sorties	Totale de participants	Nbre de MILDA reçues	Nbre de MILDA utilisés	Nbre de personnes dormant sous MILDA	Nbre de femme encientes sans MILDA
Ronsin Mossi	18	131	34	33	56	2
Kwriaoghin	13	86	36	36	76	5
Riaoghin	19	84	21	21	32	0
Gninga	10	55	24	42	55	0
Karrin	7	57	19	22	41	0
Bollin	12	181	55	50	108	0
Total	79	640	189	204	368	7

表 3 ASC へのアンケート結果

Question 1. En quoi cette activité vous a été utile pour vous et pour votre communauté ?

- La population a compris l'utilité des MILDA
- Informations justes sont données à la population
- Population connaît l'intérêt de dormir sous MILDA
- Population protégée contre les piqûres de moustiques (paludisme)
- Population de connaître l'utilisation et l'entretien des MILDA
- Connaissance des populations renforcées sur l'utilisation et l'entretien des MILDA
- Implication de la population à la gestion des problèmes de santé
- Connaissance sur la réparation des MILDA

Question 2. Quelles sont les difficultés rencontrées au niveau de votre village?

- Saison des pluies (travaux champêtres)
- Période de récoltes
- Plaintes de certaines personnes sur la mauvaise qualité des MILDA distribuées
- Non disponibilité des membres des ménages

Qu'est ce que vous avez fait pour surmonter ces difficultés ?

- Conseils sur la réparation des MILDA déchirées
- Revisite aux familles

Que suggérez-vous pour améliorer le travail sur le terrain la prochaine fois ?

- Motivation financière des ASC
- Doter les ASC de moyens de déplacement
- Doter les ASC d'un kit anti-palustre en début de l'hivernage
- Renforcer la supervision
- Primer les familles utilisant bien les MILDA par d'autres MILDA
- Motivation des ASC en toute nature
- Mener l'activité uniquement en saison sèche